

東京都退職校長会



会報

発行所 東京都退職校長会  
発行者 多田 丈夫

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 日本退公連・鈴木共同ビル5F  
電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ [totaikou.jp/](http://totaikou.jp/)

1. 景色は違ってても原点は同じ

今、月日の早さに驚いている。平成28年5月の第63回定期総会で会長に推挙されて以来、3期6年が経過した。この度、肩の荷をすべて降ろすつもりで会長職を固辞してきたが…。只今は、大海を右往左往さまよう小舟のような心境だが、引き受けた以上、最善を尽くしたい。思い起こせば就任時に、(足を踏んだ者は踏んだことをすぐ忘れる。踏まれた者はいつまでもそのことを覚えていくもの)と訴え、「研ぎ澄まされた



組織の閉塞感を乗り越え、  
新たな世相への出発を

東京都退職校長会会長 多田 丈夫

人権感覚をもって仕事をしよう」と誓った。また「社長なんて偉くもなるともない。課長、部長、包丁、盲腸と同じだ。要するに命令系統を示す記号に過ぎない、切れ味の鋭い上司もいるがメンツにこだわってアイデアを葬りかねない盲腸並みもある。現実の社会で起こりがちな弊害への目配りが常に必要だ」とホンダの創業者本田宗一郎氏の示唆に富んだ言葉を引用させていただいた。4期目の舵取りを任された今、その思いは聊かも変わらない。

2. これまでの成果から何を学ぶか

この6年間、本会の取組と成果は目を見張るものがあった。まず、明日の組織を考えた盤石な会則が改正された。現職の校長の仲間入りをはつきりさせ、将来へのスクラムが組めた。都との委託事業「採用前実践的指導力養成講座」にも我々は主体的に取り組んだ。都教委と5校種の校長会、全都の学校現場が足並みを揃え、国際都市東京の「教師教育」に貢献した。また、都と一体となって実施した「人材バンク事業」も立

派な成果を残した。経験と知見を持つ多くの仲間が、多様化する学校の校長を支援した。10年に一度の関プロ東京大会では、組織の企画力・団結力を発揮し、本会の存在感を高めた。第5回を終えた教育フォーラムも画期的だ。これらの取組の原点は、本部と支部が一体となった結束力と実行力にあった。未だ、終息のメドの立たない前途多難なコロナ禍にあって、これまでの実績と成果から我々は何を学ぶべきか、その力が問われている。

3. ビルド・バック・ベターの時代に

新たな日常の先に、どんな社会が創造されるのか、今、アフター・コロナが話題である。我々の組織も腹を据えて新たな時代に立ち向かう時かもしれない。この異例づくめの世の中、確かなことは(よりよく立て直す)―ビルド・バック・ベターの時代―を想定することだと思う。さて、選考委員会の肝いりで(人心の一新)〈組織の将来性〉(人材の若返り)〈広範な人選〉を考えたバランスある本部体制が実現した。この最高の仲間と一緒に本会の創設時を思いつつ、今日の閉塞感を打破し、未来を届ける役割を果たしていきたい。2年後には、創立70周年記念式典を迎える。

主な記事

- P1 巻頭言 会長挨拶
- P2 総会中止報告、令和2年度評議員会開催  
令和2年度活動報告要旨
- P3 令和3年度事業計画要旨、会則改正の主な条文  
第1回会員研修会中止のお知らせ
- P4 令和3年度 本部役員・事務局長一覧  
コロナ禍の中の支部活動
- P5 会員増強プロジェクト・チーム コラム
- P6 令和3年 春の叙勲受章会員  
高齢者叙勲受章会員  
新入会員の声
- P8 物故者、応募コーナー、編集後記